

篠原家史料概要

1:文書群番号	107016
2:文書群名	篠原家史料
3:出所	篠原家（未詳）
4:家業・役職等	-
5:地名	大阪府？
6:行政区分	-
7:歴史	史料寄贈者・奥田英子氏の祖父である小倉文七氏（旧姓篠原氏）は、伯母の嫁ぎ先であった小倉家に養子に入った。小倉家は靱公園周辺で海産物商を営んでおり、篠原家も大阪市内に居住していたようである。英子氏実家に父親の姉（英子氏伯母）が同居していたことから、その関係文書も混在している可能性があるとのこと。
8:伝来	奥田英子氏の実家小倉家に伝わる史料を、平成19年に史料館が借用した。 英子氏の祖父・文七氏（小倉家当主は文七を襲名）が篠原家から小倉家へ養子に入った際に持参した史料か。文七氏が篠原姓のときの名は未詳。同年9月27日奥田氏より寄贈の申し出があり、平成22年1月、整理・目録作成を完了し、同年2月寄贈を受けた。
9:史料入手先	奥田英子氏（尼崎ボランティア・ガイドの会）
10:点数	9点（目録件数7件）
11:年代	明治27年（1894）～同35年（1902）
12:構造と内容	概ね明治20～30年代の史料からなる。「質契約書綴」（目録番号2）は、宛先がいずれも井口平蔵宛であるが、同人物の詳細は未詳。「金銭出納簿」（同3-1.2）は日常の細々とした出費を書き上げたものである。書状（同4）及び家屋建物に関する証文（同5）は篠原家宛となっている。 特徴的史料としては、「島津久光差出14ヶ条の御註解并20ヶ条の御尋問の写し」（同1）がある。同史料では前欠であり、また、年月日に齟齬がみられるなど不十分ではあるものの、久光の建言が写されているほか、明治8年10月の板垣退助から三条実美への建白、同年9月23日付京都管下士農5名から三条実美への建白についても書き留められている。
13:関連史料	なし
14:閲覧条件	原本
15:作成者	河野未央